

雪峯の盡大地じんたいち

【垂示】

垂示に云く、大凡、宗教を扶ふ豎じゆせんには、須らく是れ英靈底の漢なるべし。人を殺すに眼を貶さつせざる底の手脚あつて方に立た地に成佛せしむべし。所以このゆゑに照用しょうゆう同時、卷舒齊しく唱え、理事不二にふ、権日並べ行ず。一いち著ちやくを放過して第二義門を建立す。直下じきげに葛藤を載断せば、後學初機、湊泊そうはくするに難為ならん。昨日も恁麼いんも、事已むことを獲ず、今日も恁麼、罪過彌天みてん。若し是れ明眼の漢ならば、一點も他を謾まずることを得ず。其れ或は未だ然らずんば、虎口裏に身を横たえて喪身失命しつみょうを免がれず。試みに擧す、看よ。

【和訳】

(略)

【本則】

擧す、雪峯、衆に示して云く、盡大地、撮し来るに、粟米粒の大きいさの如し。
 面前に抛向す。
 漆桶不會。
 鼓を打って普請して見よ。

（雪峰が衆僧に対して言った。）

全天地をつまみ上げれば、粟粒ほどの大きさだ。

汝らの面前に放り投げたぞ。

とんと分らないというか。

それなら、太鼓を打って皆して搜索活動を始めなさい。）

【評唱】

（略） 二五行

【頌】

牛頭没し
 馬頭回る
 曹溪鏡裏塵埃を絶す
 鼓を打って看せしめ来れども君見ず
 百花春至って誰が為にか開く

(牛頭が居なくなつた途端に、馬頭が帰ってくる。
曹溪の鏡に塵などない。
太鼓を打つてみても分からないのか。
それでも春にはさまざまな花が咲くのは、誰のためか。)

【評唱】

(略) 一 一行

* 頓悟を説いた南宗の祖、慧能の偈「菩提本無樹 明鏡亦非台 本来無一物 何処惹塵埃」からとつた。

『臨濟録』上堂

「上堂云。赤肉團上有一無位真人。常從汝等諸人面門出入。未證據者看看。時有僧出問。如何是無位真人。師下禪床把住云。道道。其僧擬議。師托開云。無位真人是什麼乾屎^②。便歸方丈。」

（上堂。云く、赤^{しゃく}肉^{にく}團^{だん}上^{じょう}に一無位の真人^{しんじん}あり。常に汝ら諸人の面門より出入す。未だ證據せざる者は看よ看よ。時に僧あり、出でて問う、如何なるか是れ無位の真人。師、禪床を下りて把住して云く、道え道え。その僧、擬議す。師、托開して云く、無位の真人これ什麼^なの乾^{かん}屎^し橛^{けつ}ぞ。便ち方丈に帰る。）